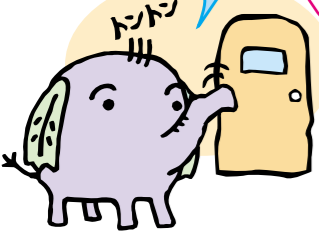


ごめんください
コーナー



ごみは宝だ!

ご存じですか。資源の集団回収をすると、税金の節約と資源回収団体の収入にもなります。集団回収を熱心にされている自治会のお話をうかがいました。

小中野自治会 (345世帯)
会長 山下金吾さん
集団回収のことは、H16年2月頃、市からのお知らせで知りました。10年以上前に集団回収の経験があったのですが、途絶えたままになっていました。会費を上げずに何とか収入増をはかるために、役員会で提案しましたが、4月の総会(80名出席)では、皆さん納得してくれて、全

小和田自治会 (120世帯)
会長 青木旦治さん
小中野自治会は、H16年に2つの自治会が合併してできました。地理的にもまとまって活動した方が自然ですし、便利なことも多かったからです。でも、市からの補助金が20数万円も減ることになります。自治会費を値上げせず、何とか収入を得た

小倉自治会 (175世帯)
会長 細川 隆さん
会計 遠藤武男さん
25年前から資源回収を始めています。始めることを決めた時、収入を得ることも一つですが、会議で一人の組長さんが「これからはリサイクルの時代」と発言したことも、きっかけになりました。現在、50人前後の人が参加し

員賛成で始めることになったのです。資源回収の取り組みを通して、町内のコミュニケーションや結束力も深まりました。防災の時にも、大いに役立つと思います。なお、市で不用になったアメニティボックスを利用し、いつでも資源を持ちこめるようにしています。

いと思ったのが、集団回収をするきっかけになりました。いずれ会館も建て直すことも必要です。会計を豊かにすることが、急務だと思いました。回を重ねるごとに、参加する人も、回収量も増えています。

てくれます。最近では作業もスムーズになってきているので、1時間程で終わります。H16年度は年間6回実施し、新聞紙21t、ダンボール7t、アルミ缶500kg、1升ビン520本……など。実収入は約40万円、年間予算の大きな割合を占めています。



取材を終えて……

どの自治会も、朝から役員の方がスピーカーで町内をまわりよびかけをされるなど、その熱意に感心しました。また、どの自治会長さんも話されたこと。「みんなが“ここにずっと住みたい”と思う町をめざしています。」この思いは、話の節々からあふれていて、心に響くものがありました。

編集後記

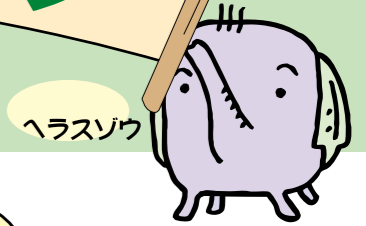
編集委員の気持ちは、みんな同じです。小学校1年生の、たお君が描く昆虫の散りばめられた地球はいかがでしたか。子どもたちに残したい地球がこうあってほしい、との願いがこめられています。身近な問題のごみを考えることを通して、私たちの周りの環境も見えてきます。私たちの周りの環境も見えてきます。ずっと暮らしていきたいと思うあきる野市にするために、みんなで智恵を出し合い、行動していきましょう。

「もったいない」を
世界のことばに!
—ノーベル平和賞受賞者
マータイさん

へらすぞう



創刊号 2005年3月



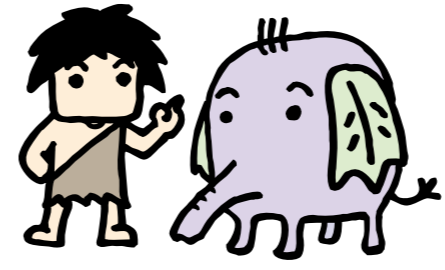
あきる野市のごみの現状…

あきる野市民ひとりあたり、
毎日約1kgのごみが
でてるんだよ。

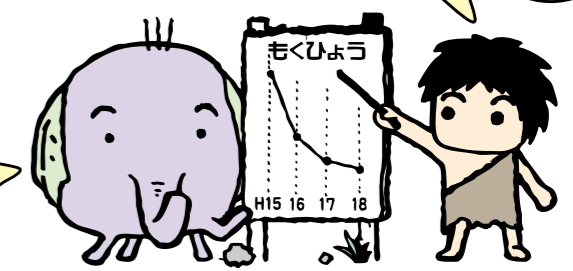
そのごみを集めて処分するまで、
毎月約**1億円**もかかっているんだって!



しかも、あきる野市は多摩地区で
燃やせないごみワースト1位
総ごみ量でもワースト5位なんだ!



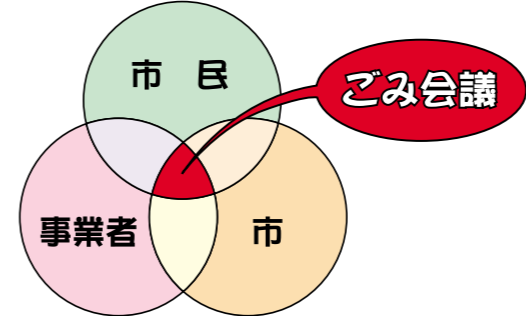
ごみを
へらすぞう!!



「あきる野ごみ会議」発足!

ごみの戸別回収・有料化だけでなく、みんなでごみ問題を解決しようと、市民、事業者及び市が立ち上がり、平成16年11月9日、あきる野ごみ会議を発足させました。

へらすぞうは、あきる野ごみ会議が発行するごみ情報誌です。「ごみをへらすぞう!」という決意で、ごみ減量やリサイクルの情報をお届けします。



あきる野ごみ会議とは……

ごみ発生抑制、資源循環型社会を目指し、市民、事業者及び市がともに協力して作った団体です。公募市民12名、事業者7名、市職員3名の合計22名で構成。単独では解決できない問題を、3者が力を合わせて取り組んでいきます。減量部会と広報部会の2つがあります。

みんなながよく この町で ずっとくらししていきたいね!

環

『環』は「まわり」「輪の形」、
『境』は「土地」「心持ち」という
意味があります。
あらゆるものがつながって、
影響しあいながら
この世界をつくっています。

こんな地球がス・テ・キ

境

見えないけれど、
そこに住む人のやさしい気持ち、
あたたかい気持ちは、
きっと目に見える形になって
地域の心地良さへと
つながっていくでしょう。

